



2026年2月期 第1四半期決算

イオン株式会社

2025年7月31日

- ・ 営業収益・営業利益ともに過去最高を更新、収益基盤は力強く拡大
- ・ 昨年下半年からの流れを継続し、価格戦略、コストコントロールに成果

連結業績 ※1

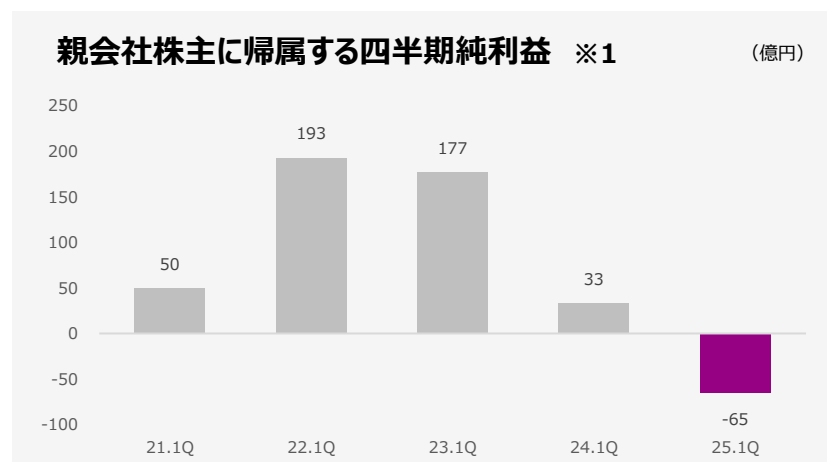
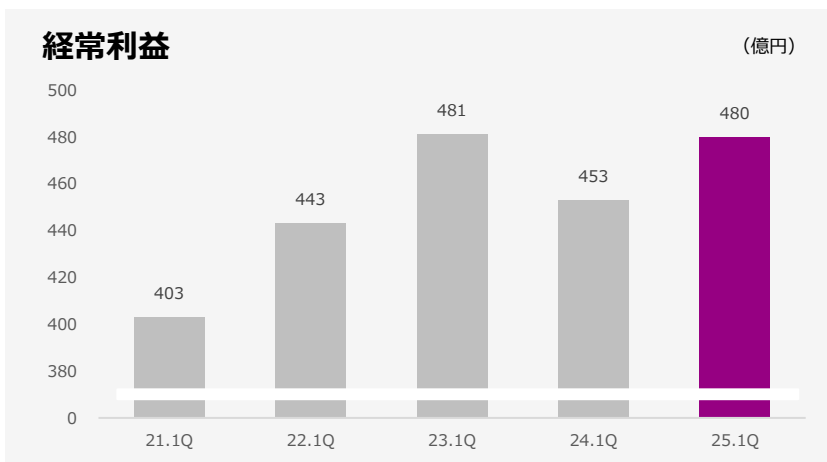
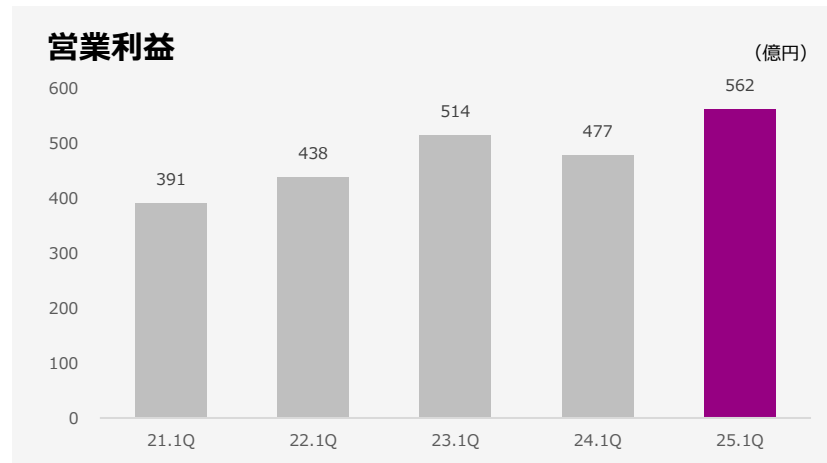
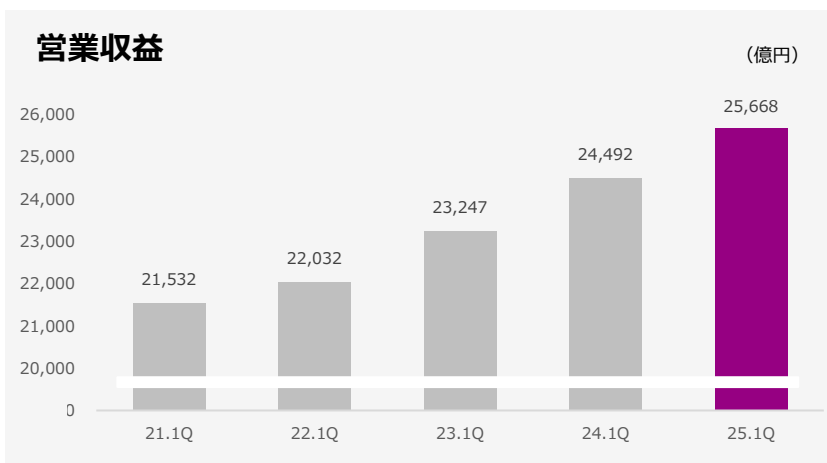
(億円)

1Q (3カ月)

	当期実績	前年実績	対前年増減率	対前年増減差
営業収益	25,668	24,492	4.8%	+1,176
営業利益	562	477	17.8%	+84
経常利益	480	453	5.9%	+26
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-65	33	—	▲99

※1 法人税等に関する会計基準を当四半期の期首から適用しており、前年実績の数値は遡及修正後の数値となっています。

- ・ 営業収益は2兆5千億円を超え、5期連続で過去最高を更新
- ・ 営業利益は2期ぶりに過去最高を更新
- ・ 親会社株主に帰属する四半期純利益は一過性要因により5期ぶりに赤字も、通期で挽回予定



※1 法人税等に関する会計基準を当四半期の期首から適用しており、24年度の実績は遡及修正後の数値となっています。

- ・ 営業収益：全ての報告セグメントで増収
- ・ 営業利益：主要4事業の増益が全体をけん引し、経費構造の改善が着実に進展

セグメント別業績

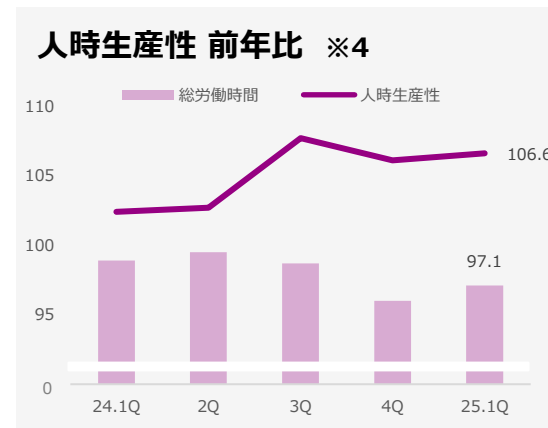
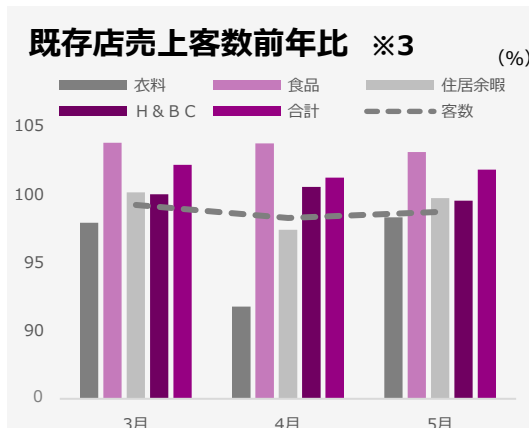
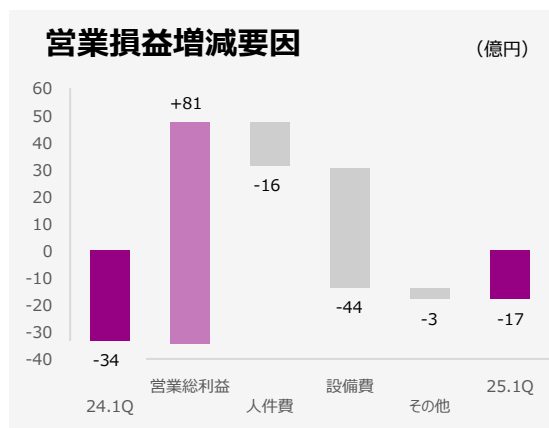
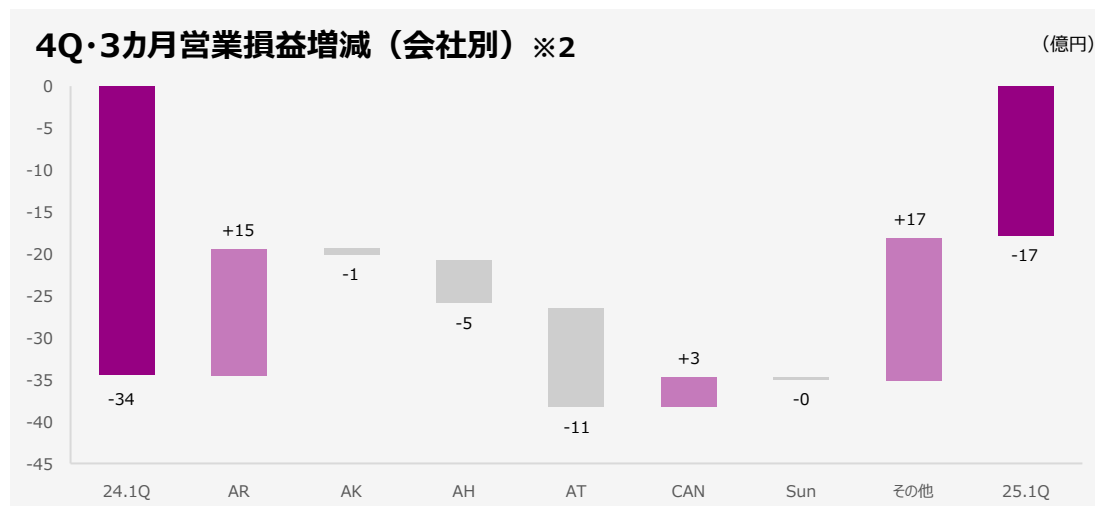
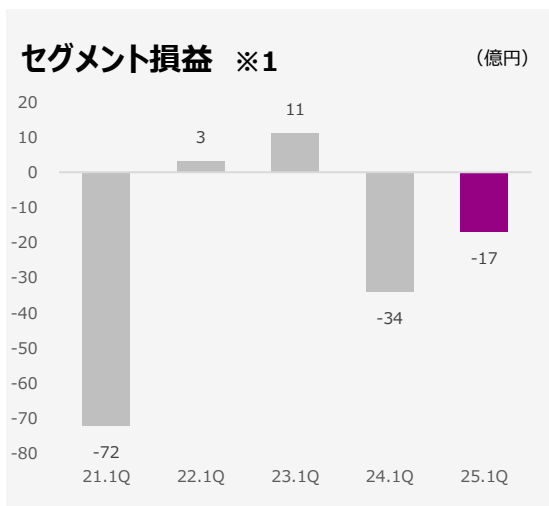
(億円, %)

1Q (3カ月)

		営業収益		営業利益	
		実績	対前年増減率	実績	対前年増減差
報告 セグ メン ト	GMS事業	8,882	104.0%	-17	+16
	SM事業	7,604	104.1%	69	+34
	DS事業	1,079	107.5%	18	-0
	ヘルス&ウェルネス事業	3,359	105.7%	84	+31
	総合金融事業	1,393	109.5%	134	-15
	ディベロッパー事業	1,283	105.3%	171	+14
	サービス・専門店事業	1,866	102.8%	69	+8
	国際事業	1,516	106.6%	42	+2
その他		186	122.1%	-28	-3
調整額		-1,504	—	18	-3
連結合計		25,668	104.8%	562	+84

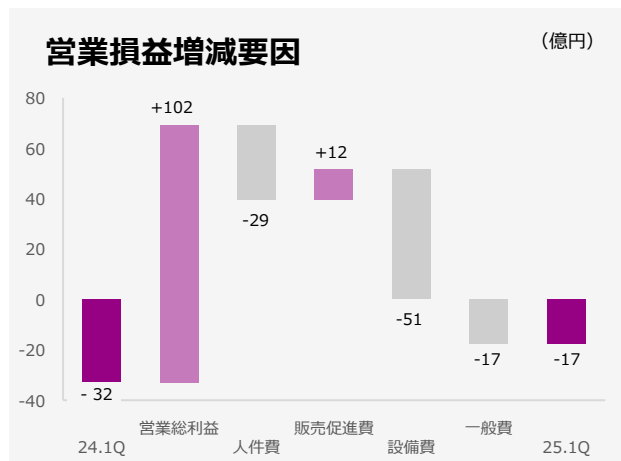
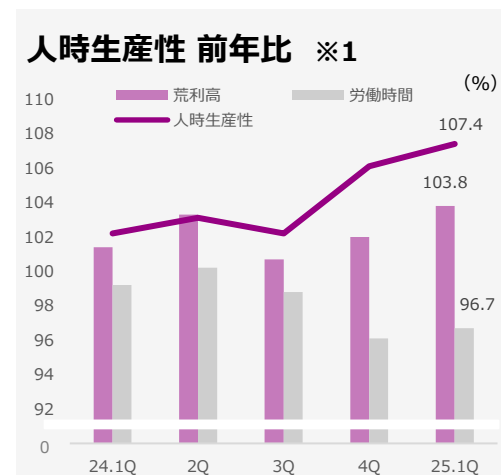
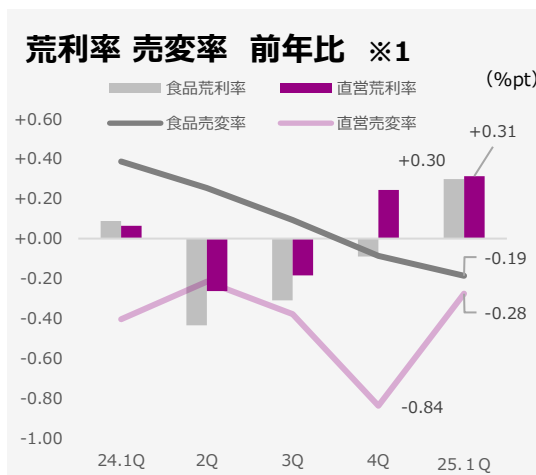
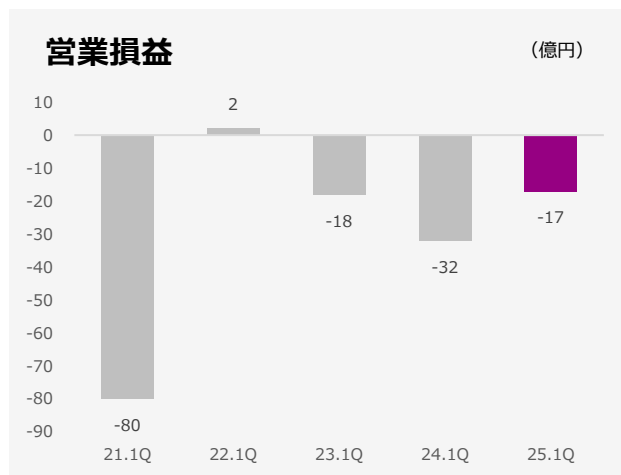
セグメント別実績の概況

- 増収、損益も改善基調へ、構造改革の効果が着実に具現化
- 価格対応力と省力化施策が収益改善に寄与
- 非食品分野のテコ入れや収益性改善などの課題は継続



※1 過年度実績はセグメント変更会社実績を調整 ※2 AR:イオンリテール単体、九州:イオン九州連結、北海道:イオン北海道単体、東北:イオン東北単体、
 キャンドゥ:キャンドゥ連結（セグメント変更）、サンデ:サンデー単体 ※3 管理会計 GMS事業12社 ※管理会計 GMS事業主要4社

- ・ 営業損失は縮小、収益構造の再構築が着実に進捗
- ・ 食品好調と荒利率改善に加え、販管費抑制で利益創出力を強化
- ・ 店舗改革とDX推進が生産性を押し上げ、再成長への土台固めへ

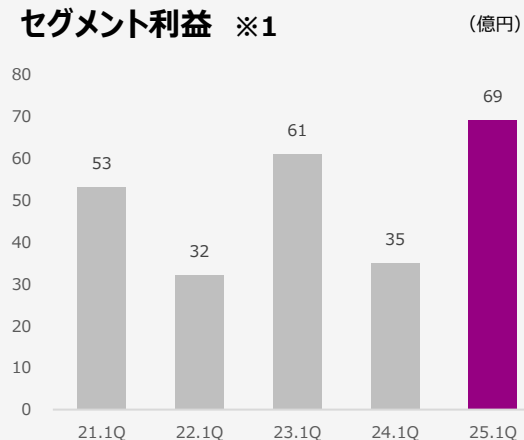


中計・構造改革の進捗、コスト上昇影響

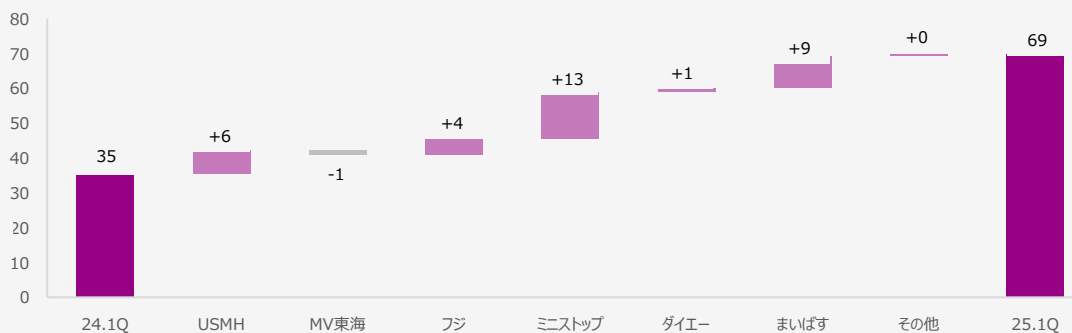
既存店売上 前年同期比	102.7%	トップバリュ売上前年同期比	108.1%
客数	100.0%	内 食品	109.4%
在庫 ※2	1,321億円	人時生産性 前年同期比	107.4%
前期末増減	+102億円	対策後の賃上による人件費影響 前年同期差 ※4	-1億円
テナント収入 前年同期差	+3億円	水光熱費 前年同期差	+12億円
EC事業売上 前年同期比	105.3%	電子棚札	169店舗
内ネットスーパー	111.2%	AIオーダー ※3	370店舗
レジゴー	279店舗	AIカカク	368店舗
		デリカ水産畜産	344店舗
		デイリー	344店舗

- ・ 営業利益は69億円、前年から34億円の大幅増益
- ・ トップバリュ拡販、Key Value Itemの価格訴求や販管費改革が奏功、DX活用による生産性向上も顕著に
- ・ まいばすけっとが事業を牽引、ミニストップは営業黒字化

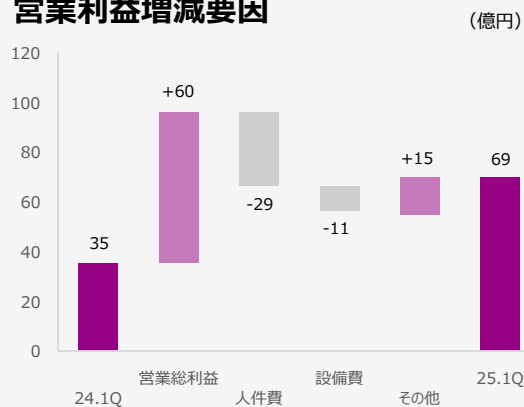
セグメント利益 ※1



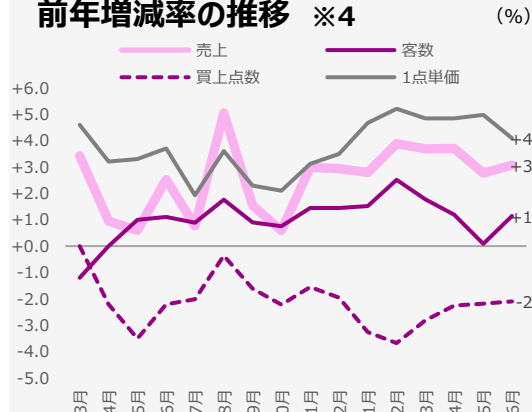
営業利益増減（会社別） ※2 ※3 ※4



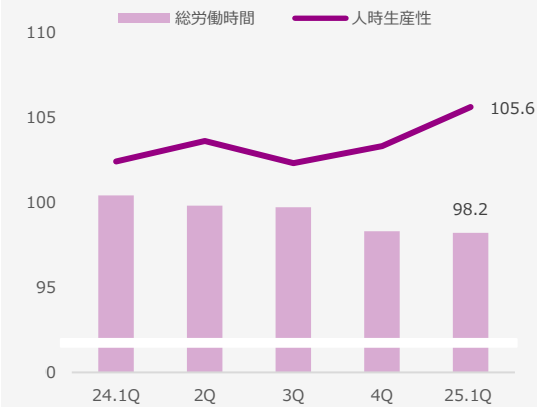
営業利益増減要因



主要企業既存店売上等 前年増減率の推移 ※4



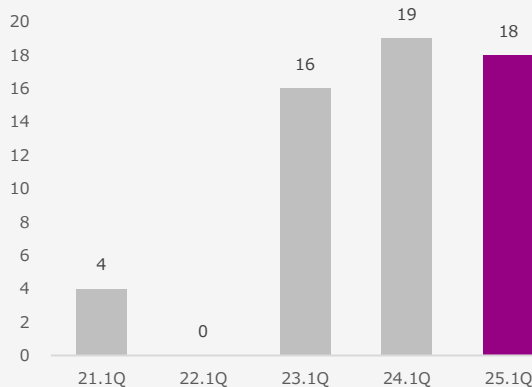
人時生産性 前年比 ※5



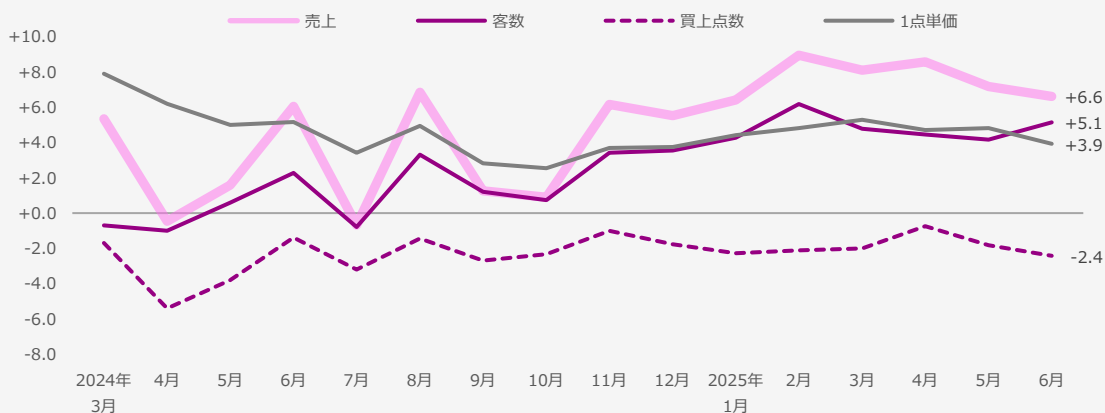
※1 通年実績はセグメント変更会社実績を調整 ※2 まいばす : まいばすけっと ※3 フジ、U.S.M.H、MV東海、ミニストップは連結業績。
ダイエー、まいばすけっとは単体業績 ※4 管理会計 SM企業13社 ※5 管理会計 SM事業主要10社

- ・ 営業利益は微減も、PB強化で基盤を拡充
- ・ 価格感度の高いカテゴリーを的確に捉え、顧客ニーズに対応
- ・ 成長ドライバーを明確化し、価格競争力とコスト対応力を両立

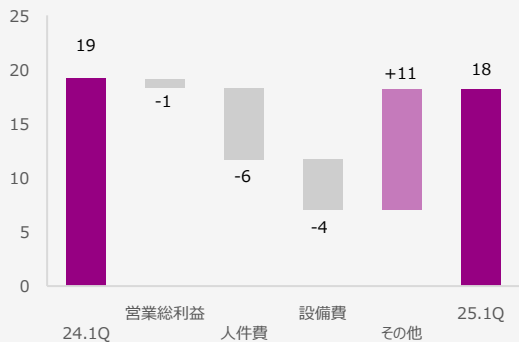
セグメント利益



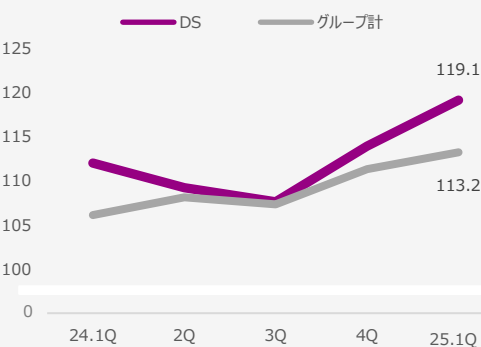
既存店売上等前年増減率 ※1 (%)



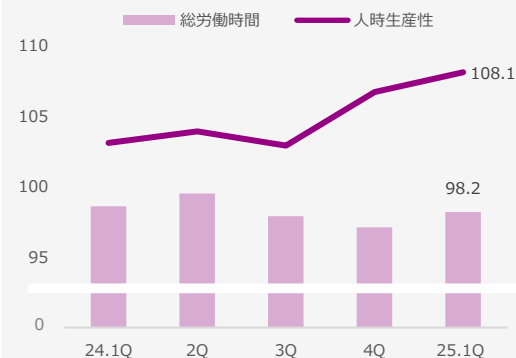
営業利益増減要因



トップバリュ売上 前年比 ※1

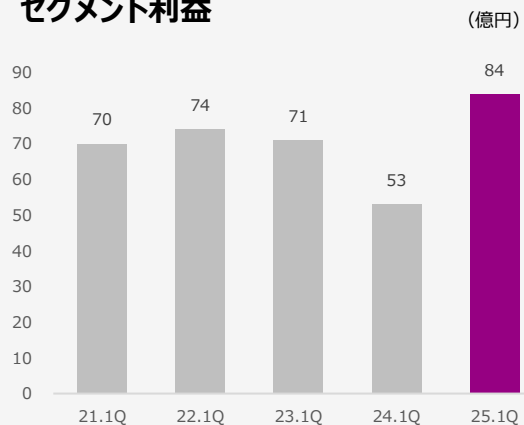


人時生産性 前年比 ※1 (%)

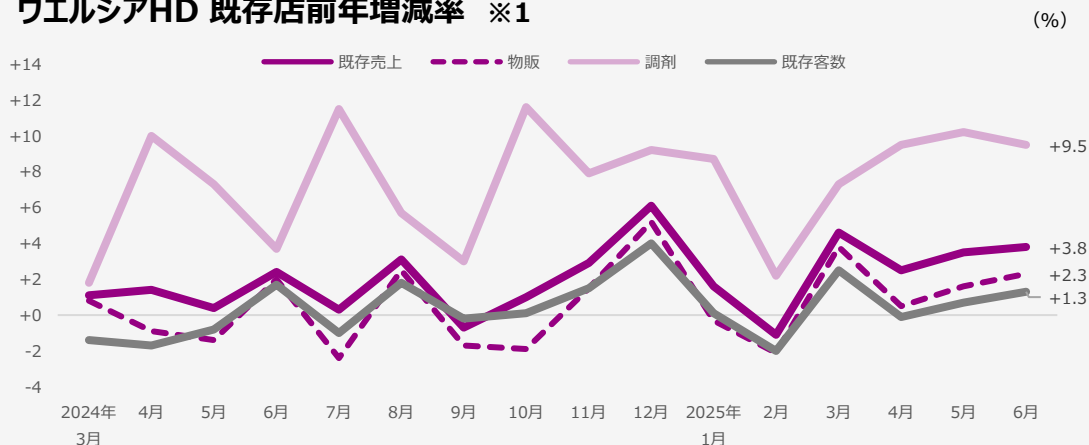


- ・ 収益改善が加速して増収増益、営業利益は31億円増
- ・ 物販・調剤ともに好調で収益性改善、PB売上は前年同期比+20%の成長
- ・ ツルハとの経営統合が本格始動、500億円規模のシナジー創出に向け中計策定へ

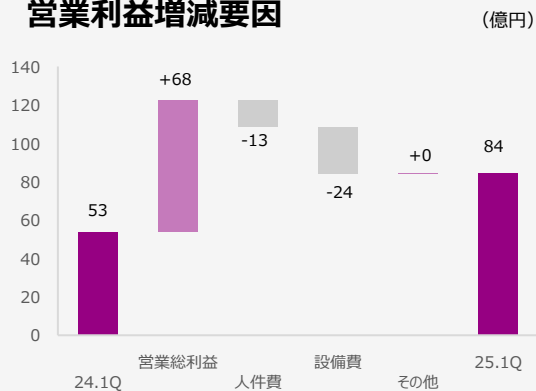
セグメント利益



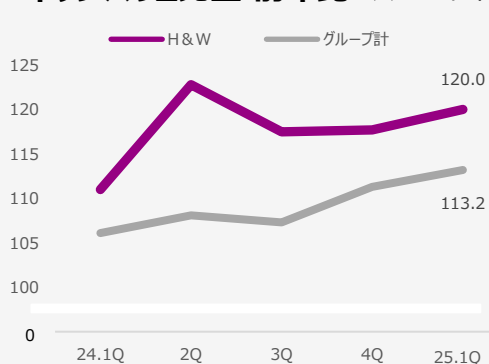
ウエルシアHD 既存店前年増減率 ※1



営業利益増減要因



トップバリュ売上 前年比 ※1 (%)



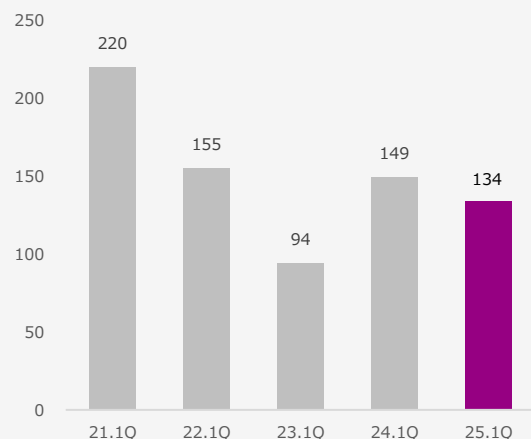
ウエルシアHD 全規模品目別前年比

品目	前年比
医薬品	105.9
化粧品	108.8
家庭用雑貨	107.7
食品	114.0
その他	101.4
物販計	108.8
調剤	113.2
小計	109.8

- 顧客基盤の拡大やカード収益の堅調な推移により、増収を確保
- 戦略的投資や金融費用の増加により営業減益も、将来の成長に向けた布石が着実に進行
- 海外ではメコン圏・中華圏で増益を確保、収益基盤の多様化が進展

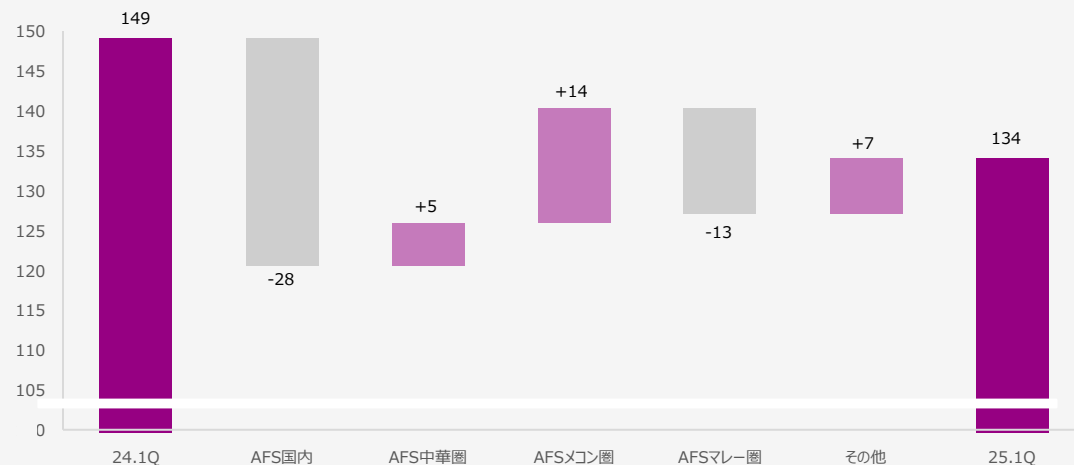
セグメント利益 ※1

(億円)



営業利益増減（エリア別） ※2

(億円)



各種取扱高、営業債権残高状況 ※3

(億円, %)

		取扱高	前同 比	営業債権残高	期首差
国内	ショッピング	19,541	106%	15,015	+689
	キャッシング	1,034	101%	4,393	+114
海外	ショッピング	1,153	92%	1,524	-36
	キャッシング	471	102%	1,431	-18

イオンフィナンシャルサービス エリア別業績 ※2

(億円, %)

	国内	前同 比	中華 圏	前同 比	メコン 圏	前同 比	マレー 圏	前同 比
営業利益	34	55%	24	127%	40	156%	28	68%
貸倒関連費用	65	107%	19	85%	78	89%	82	139%

※1 過年度実績はセグメント移動会社を調整

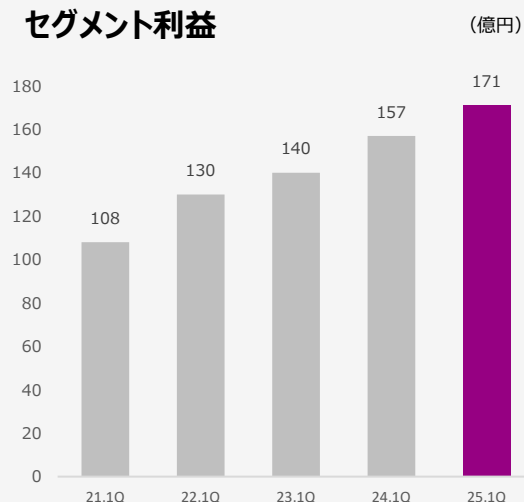
※2 AFS: イオンフィナンシャルサービス、AFS中華圏: 中国、香港、

AFSメコン圏: タイ、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー、AFSマレー圏: マレーシア、インドネシア、フィリピン、インド

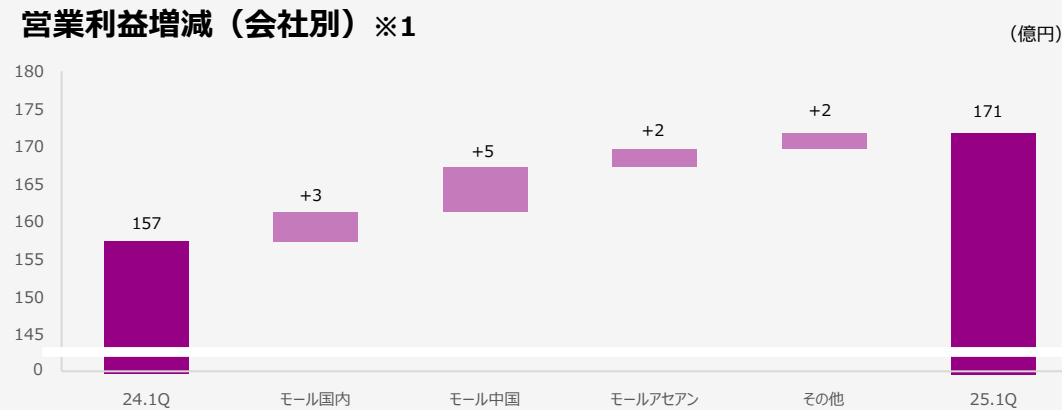
※3 営業債権残高は、債権流動化前

- ・ イオンモールは、営業収益、各段階利益とも過去最高を更新
- ・ 国内：活性化や集客施策で専門店売上伸長、インバウンド消費の取り込みで免税売上前期比1.5倍に
- ・ 海外：中国・アセアン各国で専門店売上は堅調に推移し、歩合賃料収入増で増収増益

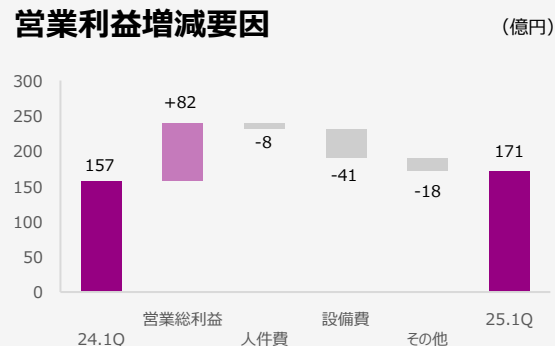
セグメント利益



営業利益増減（会社別）※1



営業利益増減要因



モール専門店売上前年同期比

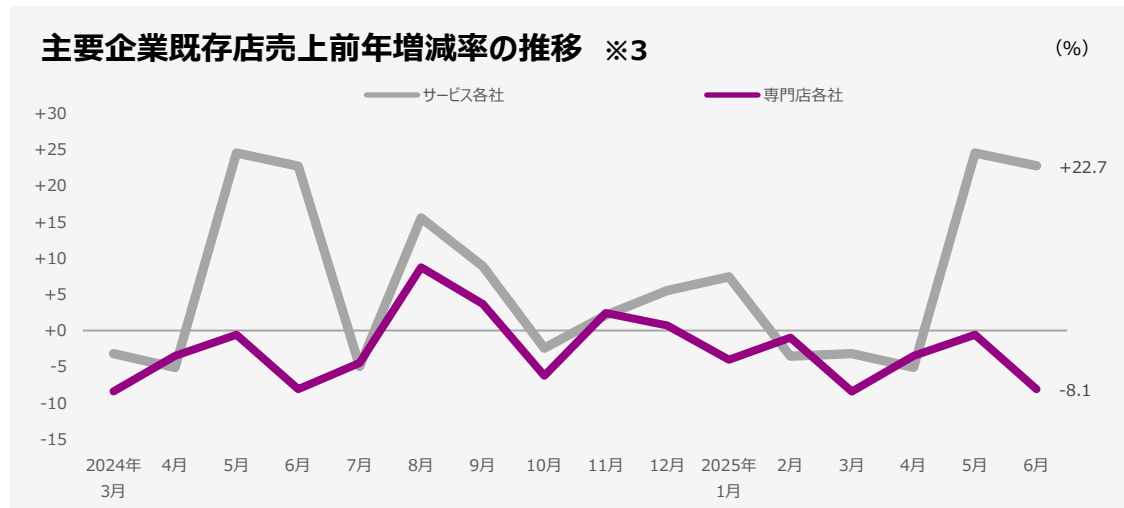
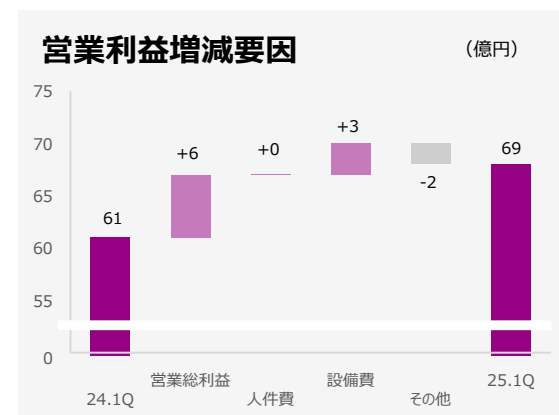
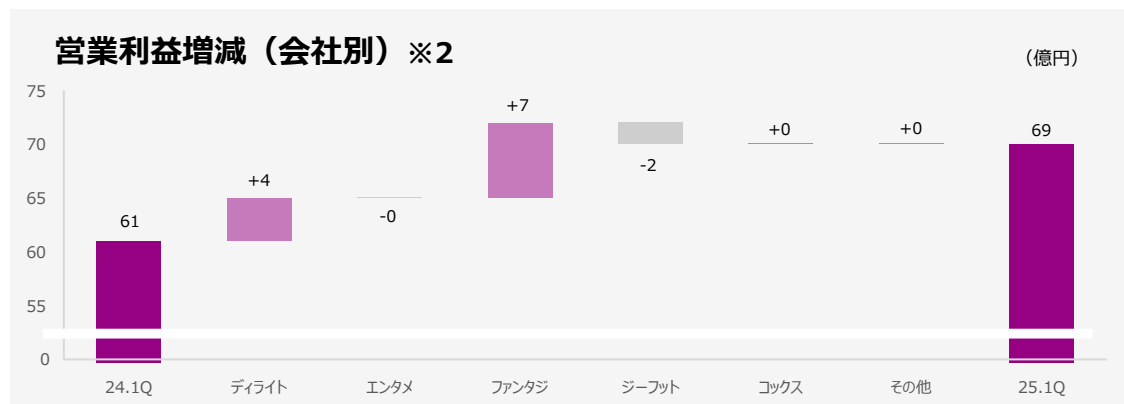
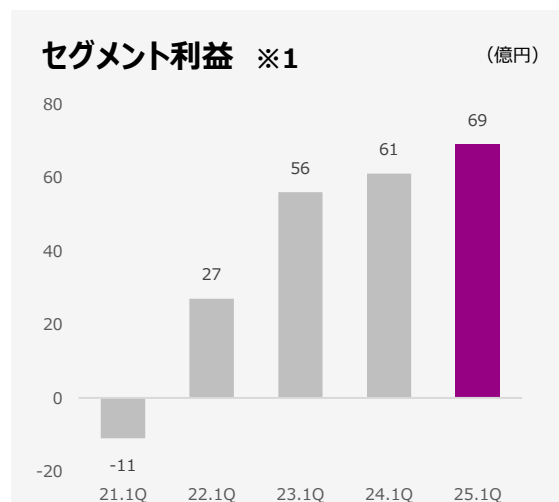
既存モール・エリア別(%)	前期比
日本	104.7
中国	101.9
ベトナム	105.4
カンボジア	107.2
インドネシア ※2	102.6

日本国内既存モール・業種別(%)	前期比
大型専門店	111.4
衣料品	101.4
服飾品	102.6
雑貨	104.4
飲食	106.5
アミューズメント・シネマ	104.9
サービス	103.5
専門店小計	103.7

※1 モール国内:イオンモール国内セグメント, モール中国:イオンモール中国セグメント, モールアセアン:イオンモールアセアンセグメント

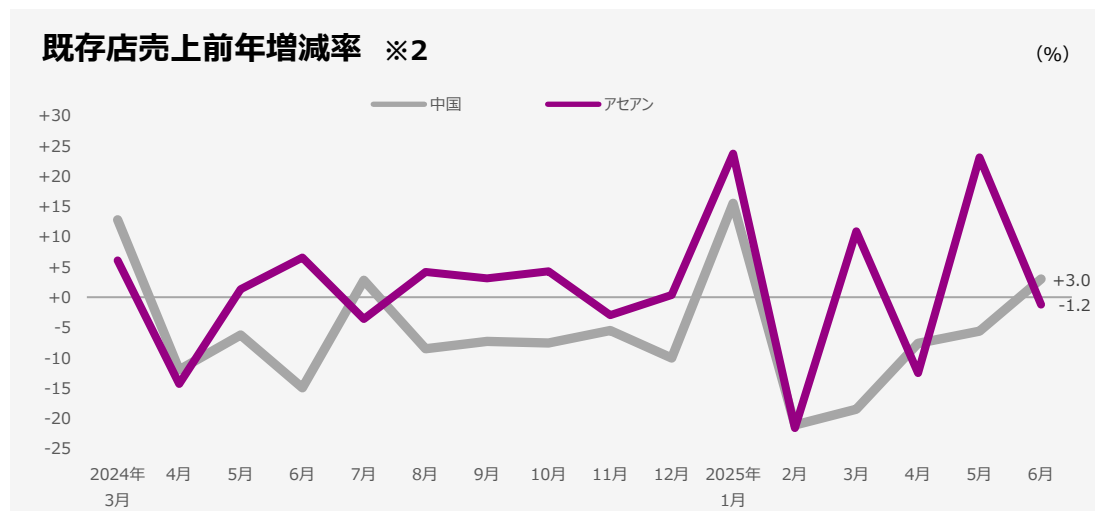
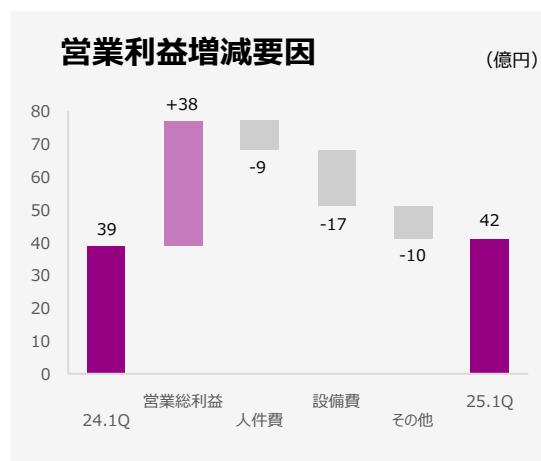
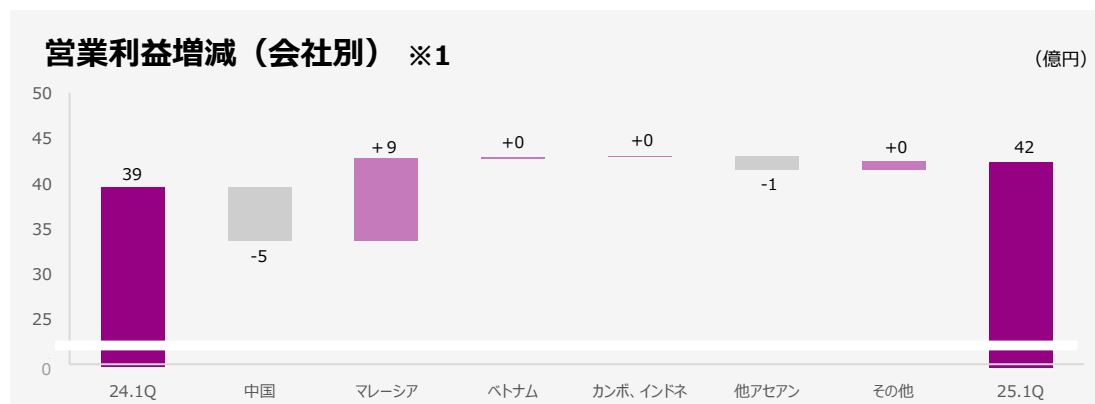
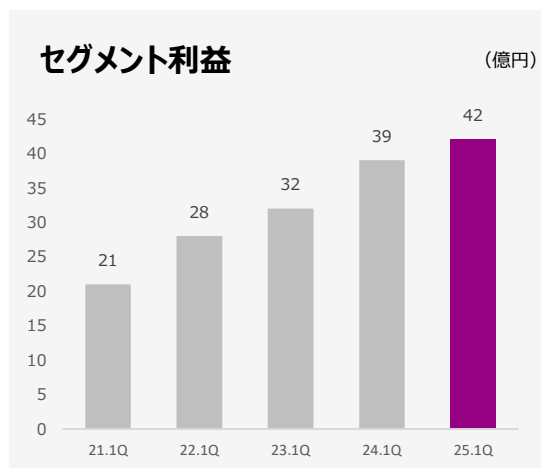
※2 インドネシアは既存モール来店客数

- ・ イオンデイライト：大阪・関西万博等の受託拡大と収益性改善策が奏功し、前年同期比二桁の営業増益
- ・ イオンファンタジー：主力のプライズ部門や収益性の高いカード部門が牽引して増収増益、営業利益は大幅増加
- ・ コックス：気温低下で春夏物が苦戦し減収も、定価販売の拡大や経費抑制により営業増益



※1 過年度実績はセグメント変更会社実績を調整 ※2 デイライト:イオンデイト連結、エンタメ:イオンエンターテイメント単体、ファンタジー:イオンファンタジー連結、ジーフット:ジーフット連結、コックス:コックス連結 ※3 管理会計、サービス各社 主要5社、専門店各社 主要7社

- ・ イオンマレーシアは販促・催事施策等による売上拡大と厳格なコスト管理で増収増益
- ・ イオンベトナムは荒利率の改善に余地を残すも、新店、既存店ともに好調で増収増益
- ・ 中国では消費マインドが低調に推移する中、北京・湖北・香港で増益・損益改善



※1 中国:中国事業、マレーシア:イオンマレーシア連結、ベトナム:イオンベトナム、カンボ:イオンカンボジア、インドネ:イオンインドネシア、他アセアン:他のアセアン4社 ※2 管理会計、アセアン:イオンマレーシア、イオンビッグマレーシア、イオンタイランド、イオンベトナム、中国:イオン香港、イオン華東、青島イオン、広東イオン、北京イオン、イオン華南、イオン湖北

2025年度の見通し

- ・ 備蓄米の集客効果や後半の気温上昇と得意日の効果で概ね想定通りの進捗

6月度 事業別既存店売上前期比 7月3日現在速報値

事業※	既存店 売上前期比
GMS	101.5
SM	103.1
DS	106.6
ヘルス&ウエルネス	104.2
ディベロッパー	102.2
サービス	122.7
専門店	91.9
中国	103.0
アセアン	98.8

6月度 会社別既存店売上前期比 7月10日開示

会社名	既存店 売上前期比
イオンリテール(株)	102.1
イオン北海道(株)	101.7
イオン九州(株)	105.7
(株)キャンドウ	100.7
マックスバリュ東海(株)	101.9
(株)フジ	103.1
U.S.M.H(株)	102.4
ミニストップ(株)	101.5
ウエルシアホールディングス(株)	103.8
(株)コックス	92.0
(株)ジーフット	89.2
(株)イオンファンタジー	103.3

※ 各事業の値は、主要企業の実績に基づきます。

GMS：12社、SM：13社、DS：3社、ヘルス&ウエルネス：3社、 サービス：5社、専門店：7社、デベロッパー：イオンモール、イオンリテール・イオン東北DV、中国：7社、アセアン：4社

- 第1四半期は概ね想定どおりの進捗、営業収益、営業利益で過去最高を更新
- 第2四半期以降も改善基調継続、経費構造改革と価格戦略を両輪に業績推進
- 経営統合による連結子会社化・完全子会社化は今期予想に織り込まず、進捗状況を踏まえて情報開示予定

(億円)

2025年度

	予想	前期比	前期差	1Q実績	進捗率
営業収益	105,000	+3.6%	+3,651	25,668	24.4%
営業利益	2,700	+13.6%	+322	562	20.8%
経常利益	2,500	+11.5%	+257	480	19.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益 ※	400	+47.2%	+128	-65	—

※ 法人税等に関する会計基準を当四半期の期首から適用しており、前年実績の数値は遡及修正後の数値となっています。

AEON

2025年5月末 連結貸借対照表



資産の部（主要項目のみ）				負債・純資産の部（主要項目のみ）			
(億円)				(億円)			
	2025/2	2025/ 5	前期末差		2025/2	2025/5	前期末差
現預金	12,583	12,203	△380	支払手形・買掛金	10,825	13,612	+2,786
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	18,563	19,611	+1,047	有利子負債 (金融子会社除く)	25,355	26,704	+1,349
たな卸資産	6,499	6,673	+173	有利子負債 (金融子会社)	13,088	12,803	△285
営業貸付金・ 銀行業における貸出金	36,183	36,970	+786	銀行業における預金	51,969	52,265	+296
有形固定資産	35,996	36,424	+428	負債合計 (金融子会社除く) ※	116,980 (49,062)	121,515 (53,053)	+4,535 (+3,991)
投資その他資産	11,240	11,190	△49	株主資本	9,417	8,829	△588
資産合計 (金融子会社除く)	138,333 (65,702)	141,483 (68,534)	+3,105 (+2,832)	純資産合計 (金融子会社除く) ※	21,352 (16,640)	19,923 (15,481)	△1,429 (△1,158)
				負債・純資産合計 (金融子会社除く)	138,333 (65,702)	141,483 (68,534)	+3,105 (+2,832)

※ 法人税等に関する会計基準を当四半期の期首から適用しており、前年実績の数値は遡及修正後の数値となっています。

参考資料

- 2025年9月1日に株式分割実施、中間配当20円、期末配当7円を予定
- 株式分割を考慮しない場合の期末配当は21円、年間配当金は41円

	2024年度	2025年度 (予想) ※
第2四半期末	普通配当 18円 記念配当 2円	普通配当 20円
期末	普通配当 18円 記念配当 2円	普通配当 7円
合計	普通配当 36円 記念配当 4円	普通配当 27円

※ 当社は、2025年9月1日を効力発生日として、普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行う予定です。中間配当は20円、期末配当は当該株式分割の影響を考慮した金額7円を記載しております。なお、株式分割を考慮しない場合の期末配当金は21円、年間配当金は41円となります。

予測に関する注意事項

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている 見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。